

第一印象がビジネスの成否を左右する!

アウトレ流

見た目改造計画

5000人のパーソナルイメージ戦略を指導したプロが、読者代表の「見た目」を好印象に導くこのコーナー。今回は「ビジネスドレスコードの基本」について学ぼう。

取材・文/岩見浩二 撮影/松本朋之

HAIR

くし目の通っていない髪形はビジネスの場ではNG

下を向くと髪の毛が顔にかかるようなヘアスタイルは、表情が暗く見えたり、重たい印象を与えがち。前髪が眉にかかっていたり、毛先をわざと無造作に遊ばせたようなスタイルだと不快感を与えてしまうので気をつける。ビジネスの場では「くし目の通った髪形」が基本スタイルと覚えておこう

「大きな商談や急な接待にも対応できる ビジネス勝負服を教えてください」

(株)アビリティカンパニー
代表取締役社長

熊谷和美さん
(35歳)

短大卒業後、22歳で結婚。妊娠したことで退職を告げられ起業を目指す。26歳で起業し、Web制作から印刷物の広告制作、印刷までトータルにプロデュースする事業を展開。現在は企業のCI・ブランディング戦略や広報、セミナー講師、のコンサルティングも手掛ける。
<http://www.pr-engine.com>

TOPS

体形を隠そうと「まとう・羽織る」服は余計に大きく見せる

体のシルエットを見せないようにショール風のカーディガンを羽織っているが、ドレープが多く生地もたっぷり使っているためボリューム感が出やすい。また丈が長く下に広がったデザインなので、歩いたり動いたりすると広がって、さらに大きく見えてしまう

SKIRT

丈が長すぎて全体的に重たい印象を与える

仕事場はもちろん、オフタイムでもかなり限られたシーンでしか着用できないデザイン。「個性的」ととらえてくれる相手ならばよいが、「風変わり」と思われかねないのでシーンを間違わないように。丈の長さが相手の視線を下げ、重たい印象をさらに強調してしまう

Before

編(編集部) 今回、「見た目」を

改造したいと思ったのはなぜ?

企業のブランディング提案など、最近ではコンサルティングが事業の中心になってきました。私自身、企業のトップと高額な商談をする機会が増え、信頼感を与えるイメージ作りが必要だと考えるようになってきたんです。

編 これまでどんな服装を?

広告制作の現場でクリエイターと接する仕事を中心でしたので、服装は自由でした。大切な商談の

時などはスーツを着ていましたが、

「目立たず、印象を悪くせず」な

服でした。忙しかったせいもあり、ファッションに時間を割くこともあまりせず、母の選んだ服を着ていることが多かったですね。

編 これまでに「見た目」が大事だと感じたことは?

あります。例えば打ち合わせの後に、突然会食やパーティのお誘いを受けた時など、「急に言われても、こんな服じゃ行けない」と思い、お断りしたことが何度もあ

ります。TPOに合わない格好で

その場にいたくないし、楽しいな

いと思いますから。服装や見た目はやはり大事だと思います。

編 今回、「見た目」を改造されて

周囲の反応は変わりましたか?
例えば提案する前に予算をたずねても、安く値踏んで言われたりすることがなくなりましたし、決裁権のあるトップクラスに取り付けてもらうまでが早くなりました。「見た目」の印象で確実にビジネスチャンスはアップします。



HAIR & MAKEUP

ストレートヘアと色味を抑えたメイクで信頼感を与える印象に

女性がきちんとメイクをすることも、ビジネスドレスコードのひとつ。熊谷さんのアピールしたいイメージは「華やかさ、あでやかさ」ではなく、「信頼感がある、仕事ができる」女性。そこでメイクも色味を抑え、極めてナチュラルにまとめた。髪はくし目を通してまとめ、顔をスッキリと見せる。耳を出すことで清潔感があり凛とした印象になる。

ACCESSORY

バカラのアクセをさりげなく。「本物」が放つオーラで品格やクラス感がアップ

メイクの色味を抑え、スーツとインナーをモノトーンにまとめたことで、色を放つイヤリングとネックレスに視線が集まりやすくなる。そこで上質なアクセサリを装うことにより「成功者のゆとり」を感じさせることができる。本物のジュエリーは品格を上げるが、過剰な装飾は品位を落とすので注意

CUT & SEW

「色とディテール」で変化をつければ自己流のアレンジを楽しめる

ブラウスや柔らかな素材のカットソーなど、インナーは胸元が詰まったものよりやや開いたデザインを選ぶと大人の「ゆとり」が醸し出せる。ただし、お辞儀をした時に胸元が開きすぎないこと。スーツスタイルの時は、インナーの「色とディテール」で変化をつけたり流行を取り入れたりすれば、自分らしいアレンジを楽しめ、全体のバランスも崩れない

Advice

最も“固い業界”の取引先にも通用するドレスコードを守る

熊谷さんは目上の方と仕事をする事が多くなり、またセミナー講師として招かれることもあるとのことでしたので、ビジネスドレスコードの基本を守り信頼感を与えるスタイルにしました。今回選んだスーツスタイルは「スカートスーツ」です。例えば銀行では、女性のパンツスーツは正式な装いとは見なされません。役所関連も同様ですので、皆さんも融資や行政制度の申請・相談などで足を運ぶ際には気をつけてください。ビジネスドレスコードを踏まえた装いは「良識ある経営者」という印象につながり、それがビジネスでの信頼に大きく貢献します。



MIST GRAY代表
鳴原弘子さん

しぎはら・ひろこ ● オリジナルメソッド「服飾戦略術」を確立し、経営者・個人事業主・著者など、約5000人のパーソナルイメージ戦略を指導。服飾専門家として、講演・コラム執筆・TV出演など多数実績を持つ。

<http://www.mistgray.jp/>

SUIT

大切な商談や接待にはドレスコードやマナーの点でもスーツスタイルが◎

高額な商談も、急な接待にも対応でき、季節を問わず着用できるのがスーツスタイルだ。基本はスカートで、パンツスーツはドレスコード的にNGという業界があることを覚えておこう。シーズンごとに素材や色、サイズも豊富にそろうためセレクトしやすい

NEW STYLE

PUMPS

ビジネスシーンではパンプスが基本。色は服やカバンに合わせる

ベーシックなスーツスタイルには、基本のパンプスとナチュラルカラーのストッキングで良識あるスタイルに。ビジネスドレスコードでは、サンダルやミュールはNG。ビジネスで足下は必ずチェックされるので、パンプスのかかどがすり減っていないか、汚れていないか、出掛ける前に必ずチェック！

After

